

## 第5章 過去帳



第5章 過去帳

第1節 過去帳の入力

### 第1節 過去帳の入力

#### 1. 戒名・フリガナ

戒名のフリガナ欄は、戒名を入力した場合にフリガナが自動入力されるかどうかの切替ができます。フリガナ欄の左に配置された「フリガナOFF/ON」ボタンを押すことにより切替ができます。

過去帳の初期表示では、「フリガナON」となっています。

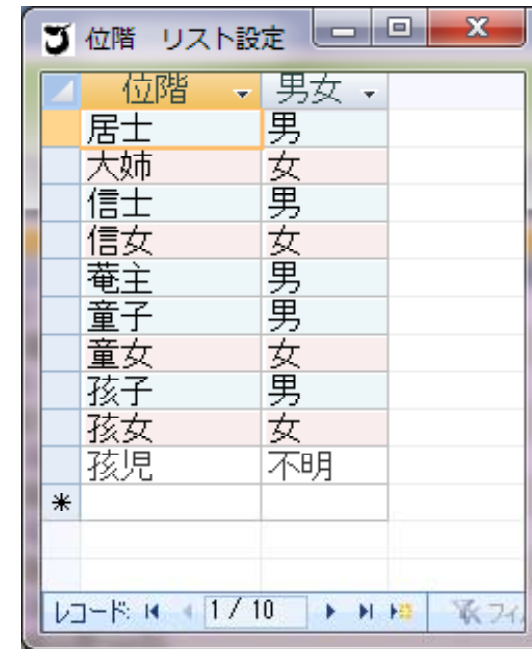
#### 2. 位階、性別

位階は、位階リストから選択入力できます。

性別を選択することでそれぞれ男女別の位階を表示させることができますし、逆に、男性・女性のそれぞれ固有の位階を入力すれば、自動で性別が判断されます。(幼児など、性別が判断できない位階の場合は、不明となります。)

## ◆◆ 新機能 ◆◆

位階欄をダブルクリックすると分類リストの一覧を表示して内容を編集できます。



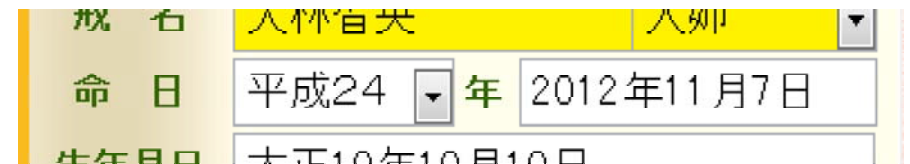
第5章 過去帳

第1節 過去帳の入力

#### 3. 命日

左側には和暦の年号を、右側には西暦で命日を入力しますが、左右の欄は相互入力関係にありますので、和暦の元号を入力すれば、西暦は自動で入力されますし、命日を入力すれば、和暦の元号が自動で入力されます。

また、和暦を入力する場合は、「年」の文字列を含めずに入力します。(和暦リストから選択入力もできます。)



#### 4. 生年月日

生年月日の通常の入力方法は、先頭に元号を入力し、その後ろに年月日を入力しますが、元号ではなく西暦を入力しても**明治以降については、自動的に和暦に変換されます。**(例えば、“2001年1月1日”と入力すると“平成13年1月1日”と変換されますが、“1701年1月1日”と入力すると、そのまま“1701年1月1日”となります。)

### ◆◆◆ 新機能 ◆◆◆

#### 5. 年齢

生年月日と命日の両方を入力した後、年齢欄の右にある「年齢計算」ボタンを押すと年齢が計算入力されます。

年齢の算出方法は、3種類ありますので、初期設定でどの計算方法で行うか決めて下さい。

##### ① 旧享年 計算方法

旧「寺務」Plus+から採用されている計算方法で、生年月日から10月10日さかのぼった日に生を受けたとして、それ以後、1月1日を経るごとに歳を重ねる。生まれた月によって数え年と年齢が異なる場合があります。

##### ② 数え年 計算方法

いわゆる数え年の計算方法で、実際に生まれた日に1歳となり、その日から正月を超えるごとに1歳年を重ねるというもの。

##### ③ 満年齢 計算方法

命日と生年月日から満年齢を計算します。

(例)

生年月日が平成23年9月1日、命日が平成24年2月1日の場合

旧享年 → 2歳(生を受けた日が平成22年11月頃で正月2回経過)

数え年 → 2歳(生まれた時に既に1歳で正月1回経過)

満年齢 → 0歳

生年月日が平成23年11月1日、命日が平成24年2月1日の場合

旧享年 → 1歳(生を受けた日が平成23年1月頃で正月1回経過)

数え年 → 2歳(生まれた時に既に1歳で正月1回)

満年齢 → 0歳

### ◆◆◆ 新機能 ◆◆◆

#### 6. 地区

故人の亡くなった当時の地区を入力します。既存入力された一覧リストから選択入力できます。

下の檀家名のところにも地区欄があり、入力時点では、ここと同じ地区を入力されることが多いと思いますが、檀家名の地区欄は、檀家台帳の地区データなので引越をされた場合などは、自動的に新しい地区に更新表示されます。

それに対して、この地区欄は、自動で変更されることはないので、亡くなった当時の地区を入力しておきます。

#### 7. 俗名/カナ

俗名とフリガナを入力します。フリガナ欄は自動入力欄されます。

#### 8. 施主/続柄

施主/続柄欄には、故人が亡くなった当時の施主や施主との続柄を入力します。「太郎の父」など。

この欄も上記地区欄同様、入力時点では、「施主」=「檀家名」となることがおおいでしょうが、世代交代等をするとう檀家台帳の名前が変わり、檀家名欄も自動更新されますので、当時の施主がどなたか判るように施主と施主との続柄を入力しておきます。

#### 9. 家系検索ボタン

続柄欄の右にに配置された「検索」ボタンは、昔の過去帳を入力している際に現在の檀家(家系)が不明な場合に利用します。**(家系検索機能)**

**「検索」ボタンを押すと、俗名や続柄から故人を検索表示します。**

この検索表示された故人の中で、現在の檀家欄に表示があれば、その家系が判明します。

しかし、どの故人にも現在の檀家欄に表示がない場合は、再度、別の俗名や続柄の記載がある故人の「検索」ボタンを押して、次世代の世襲者を検索します。

家系検索機能を有効とするためには、次のような条件が必要です。

- (1) 家系検索では、**俗名欄と続柄欄の記載により検索**しますので、双方とも記載のない場合は検索できません。
- (2) 続柄欄には「**続柄**」欄に「**太郎の父**」というように中間に「**の**」の文字も入力しなければなりません。
- (3) 家系検索は、すでに入力された過去帳のデータの中から検索しますので、ある程度**過去帳の入力が完了**していなければ、有効に検索することはできません。
- (4) 俗名欄や続柄欄に使用する**文字には統一性**がなければなりません。統一性がない場合とは、旧字と新字などの場合のように、一方では「**實太郎**」と旧字などで記載し、一方では「**実太郎**」と新字で入力したりすることです。

## 10. 檀家名

檀家台帳に入力した檀家リストから選択して入力してください。(並び順はフリガナ順です)

**この入力で、檀家台帳の戸別過去帳に故人を表示できます。**

一度この現在の檀家名欄を入力すれば、その後、施主の世帯主が交代しても檀家台帳を変更すれば、この檀家名欄も自動変更されます。

リストに檀家名がない(檀家台帳に入力していない)場合は、上部の「檀家台帳で開く」ボタンをクリックすると、檀家台帳が追加入力モードで表示されますので、ここで檀家データを入力してください。(又は直接入力しても檀家台帳に氏名が入力されます。)

その後、檀家台帳を閉じれば、檀家名欄にその名前が入力されています。

また、檀家名が入力されている場合は「檀家台帳」ボタンをクリックすると、当該檀家を檀家台帳で表示します。

## 11. 納骨・納骨日、永代・供養日

この納骨欄や永代欄にチェックを入れることにより、その一覧等を印刷できます。また、チェックを入れることで日付の欄も入力できるようになります。

## 12. 位牌

位牌の有無、位牌の場所、その他位牌についてメモを記載します。  
既存入力された一覧リストから選択入力できます。

## 13. 備考

備考欄は、文字の大きさや色等の飾り装飾をすることができます。  
装飾したい文字を選択すると、装飾メニューが表示されます。  
また、備考欄を**ダブルクリックすることで備考ダイアログを表示**できます。

## 第2節 過去帳の絞込表示



### 1. 年度別

命日の寂年度(元号)別に表示します。

「年度別」をクリックすると、年度の一覧リストが表示されますので、表示させたい年度を選択します。

### 2. 日付別

昔の過去帳は、命日の古い順ではなく、命日の日付け別(1日～31日別)に記載されているものもよくありますので、これらの過去帳と同様に表示できます。

「日付別」をクリックすると、日付の一覧リストが表示されますので、表示させたい日付(1日～31日)を選択します。

### 3. 檀家別

「檀家別」をクリックすると檀家の一覧リストが表示されますので、表示させたい檀家を選択します。

### 4. 重複戒名

昔の過去帳は、何度も書き写されていく内に、誤って同一故人が複数過去帳に記載されていることも多くありますし、全く同一の戒名であるにもかかわらず、別故人であることも当然あります。

そのように戒名が重複して入力された戒名(故人)を表示できます。

## 第3節 外字入力

編集モードで、「戒名」「俗名」「続柄」欄にカーソルがある状態で、過去帳の右上部に配置された「外字入力」ボタンを押すと作成された外字の入力ダイアログが表示されます。



※この画像は、外字が作成された画面であり、貴寺院のパソコンの外字データによって表示される外字は異なります。

この「外字入力」では、戒名欄に外字を入力できます。

(この画面から入力できるのは「戒名」「俗名」「続柄」欄だけです。)

外字は、シフトJISコードのF080～F27Eまでの376個について表示します。戒名・俗名・続柄欄で入力したい場所をクリックしてその外字を押せば選択した外字が欄に入力されます。

※Windowsでは、シフトJISコードのF040～F9FCまでの約1900程の外字を作成登録できます。「寺務」Plus+ ではこの内の一部の場所を表示しているにすぎませんので、これ以外でも、1500程の外字を登録できます。

但し、この「寺務」Plus+ の外字入力機能ではF080～F27E以外の外字を入力する事はできませんので、これらの外字を入力するには、通常の外字入力方法であるMS-IMEやATOKなどの日本語変換ソフトから入力しなければなりません。